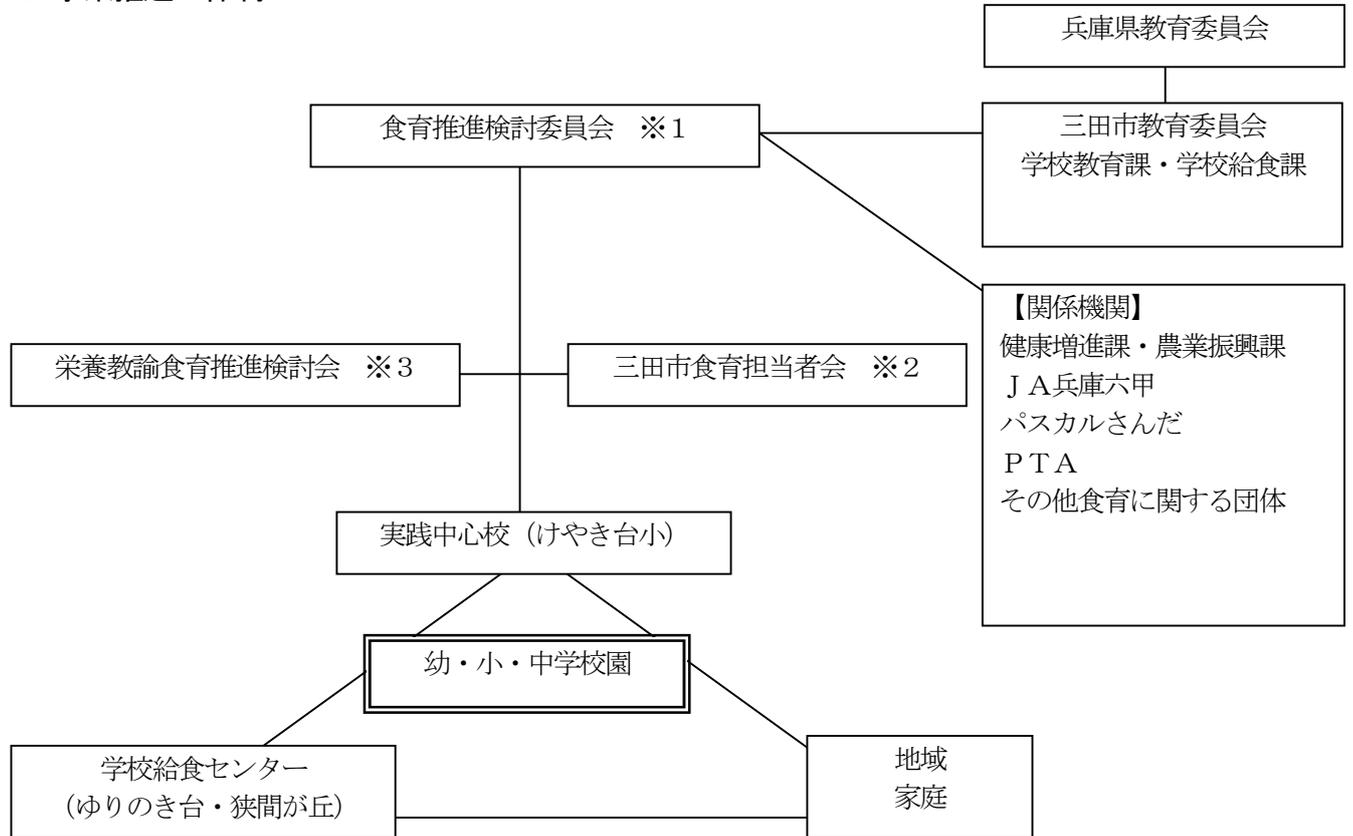


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	兵庫県
推進地域名	三田市

## 1. 事業推進の体制



- ※1 食育推進検討委員会（栄養教諭を中核として食育推進事業を検討する委員会）
- ※2 三田市食育担当者会（三田市の食育推進について研究する会）
- ※3 栄養教諭食育推進検討会（食育推進事業の企画立案、食育実践研究をする会）

## 2. 事業内容

テーマ1	学校・家庭・地域と連携した効果的な普及啓発を行うための取組
<p>&lt;三田の食育推進事業に計画的に取組む&gt;</p> <p>○平成24年11月25日“食べチャオさんだ！”三田の食育フェスティバル開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内幼小中学校園の食育活動、食に関する作品や三田の学校給食の展示</li> <li>・食事のマナー体験、食の工作体験、食のクイズラリーの実施</li> <li>・食に関する作品の表彰式</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>① “食べチャオさんだ！”キャラクター表彰</p> <p>応募総数755作品のうち「もりすけくん」「元気三田食べ物グループ」など23作品が入賞し、給食だよりや給食時間の指導資料等に活用している。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>② 料理コンテスト表彰</p> <p>三田の食材を使った「わが家のおいしい料理」を募集した。19組28作品の応募があり、10作品が入賞。一部を学校給食献立に採用している。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;">  </div> <div style="width: 30%; text-align: right;">  <p>「わっとうふカレーだモ〜」</p> </div> </div>	

- ・食育推進校の実践発表、食に関するステージ発表  
発表Ⅰ 松が丘小学校  
「保護者・地域と共にあゆむ食育～松が丘小学校の実践～歩む」  
発表Ⅱ けやき台小学校  
「おいしく食べて元気モリモリけやきっ子」  
公演 三田松聖高等学校  
「～食で育む健やかな心とからだ～」



食べチャオさんだ！料理教室



実践中心校料理教室

### ○料理教室を開催

- ①平成24年度“食べチャオさんだ！”夏休み子ども料理教室を  
市内4小学校で実施（7月30・31日、8月1・3日）  
・子どもの食の自立をめざし、料理の基礎基本と料理することの楽しさを学ぶ料理教室を市教育委員会主催で実施。  
三田でとれた季節の食材を中心に「おにぎり」と「みそ汁」を調理体験した。
- ②平成24年8月23日、実践中心校で、栄養教諭、地域の健康推進員と共に夏休み子ども料理教室を実施。学校給食を活用したメニューで「そばろどんぶり」「元気サラダ」「かぼちゃだんご汁」「牛乳かん」を調理し、バランスのよい食事や給食について学んだ。

### ○三田の食育啓発

- ・食に関する作品（キャラクターと料理コンテスト）の応募作品を広く食育活動（給食だよりや指導資料、ホームページに掲載、食育フェスティバルに展示等）に活用。
- ・全国学校給食週間に合わせ、「三田市の学校給食&食育リーフレット」を発行

### <実践中心校において>

- ・平成24年7月と平成25年1月に「食生活アンケート調査」を実施。子どもの食生活の実態を把握し、食育推進の方向性、課題や食育実践後の評価等に活用。
- ・PTAによる試食会を平成24年6月27日に開催。学校給食の理解と家庭での食生活について栄養教諭による講話を行った。
- ・“食べチャオさんだ！”三田の食育フェスティバルで、食育実践発表を行った。

## テーマ2 学校の教育活動全体を通した食に関する指導の充実を図る取組

### ○給食を生きた教材として活用

- ・給食時間の指導を充実させるため、栄養教諭作成の資料「こんしゅうのこんだて」を活用し、児童や担任が中心となり、“ひとくちおしゃべり”をして、食に関する指導を行う。また、学校と給食センター間で『給食ノート』を交換し、給食についての意見や感想を出し合う。

給食時間の指導



### ○学校菜園の整備と各学年の食育計画に沿った栽培体験の充実

#### ○食に関する指導計画に基づく体験活動と食育の充実

#### <学年別実践例「食育の取組テーマ」>

- 【1年生】「正しい食事のマナーを身につけよう」「残さず食べよう」（生活科）
- ・自分のマナーをチェックし、なぜ正しいマナーで食べる必要があるかを考えた。正しいはしの持ち方を練習し、まめっこゲームなども行い、はしを上手に使うように継続的に指導した。
  - ・国語の「サラダでげんき」の学習に合わせて、牛乳パックで『二十日大根』を育てた。
  - ・『さつまいも』を植え、苗の観察、栽培、収穫、調理と芋版やつものリースを作った。
- 【2年生】「育てた野菜でおいしい漬物をつけよう」（生活科）
- ・『きゅうり』栽培、収穫から、発酵食品の学習をし、ぬか漬け作りにつなげた。
  - ・冬野菜の『大根』を育て、収穫した大根から「切り干し大根」を作り、香りや味、おいしさの違いを体験した。

学校菜園で野菜作り



**【3年生】「給食が私たちに届くまで」「野菜を育てよう（夏野菜・冬野菜）」（総合的な学習の時間）**

- ・給食センターを見学し、給食作りや食材の流れ、努力や工夫を知り、給食の残食減につなげた。
- ・夏野菜の『きゅうり・オクラ・トマト・ピーマン・落花生』、冬野菜の『大根』を育て収穫し、調理を体験。

**【4年生】「発見！ 天地人の恵み」（総合的な学習の時間・理科）**

- ・『落花生・ゴーヤ・人参』の栽培を通して各地の特産物、植物の成長、調理体験、水彩画等へ学習を深めた。

人参の水彩画



校外学習の様子



**【5年生】「いただきます！ 魚のパワー」**

（総合的な学習の時間）

- ・「新鮮魚を買いにLet's Go」をテーマに、給食の献立から旬の魚調べ、明石でとれる魚の旬調べを行った。
- ・魚の棚（うおんたな）商店街への校外学習で、旬の魚の買い物、持ち帰って家族で調理をして食べる体験をした。また、その学習の取組をパワーポイントやリーフレットにまとめ、発表を行った。更に、水産業のさかんな地域の学習（社会科）と関連させ調べ学習を深めた。

**【6年生】「生活習慣を予防しよう」（保健体育科）**

- ・栄養教諭、養護教諭と連携して学習を進め、健康によい生活習慣の大切さについて理解を深めた。

栄養教諭・養護教諭の指導



**○食に関する指導の全体計画と年間指導計画の作成**

- ・学校の食育推進委員会を開催して計画を作成し、教職員の共通理解を図る。

**○児童会活動と連携した取組**

- ・給食残食調査（6月、11月）に合わせ、委員会活動を充実させる。
- ・異学年での給食交流会の実施

**○教職員の食育に関する意識の向上**

- ・平成24年6月28日校内研修会を開催  
各学年の食に関する指導計画の共通理解を図り、「学校における食育推進について」神戸大学名誉教授、兵庫農漁村社会研究所代表の保田茂氏の講義を受け、意識を高めた。
- ・平成25年2月5日三田市食育研修会において、食育実践報告と武庫川女子大学教授、高橋享子氏の「学校で行う組織的・計画的・継続的な食育—食育の学習効果をあげるために—」の講演を実施  
市内小中学校の食育担当者や栄養教諭の参加があり、各学年の食育実践を報告し、食育推進につなげた。

**テーマ1～2共通する具体的計画**

**<三田の食育推進事業の充実>**

- 夏休み子ども料理教室を計画的に実施。参加児童は、78人。実践中心校の料理教室参加児童30人
  - ・料理することの楽しさやみんなと食べるおいしさ、喜びを実感できた。料理を好きになったり、家でお手伝いをしたいと思ったり、もう一度作ってみたいという意欲につながった。
- 食に関する作品の募集と応募作品の活用
  - [食ベチャオさんだ！] キャラクターの応募
  - 19小学校（95%：学校数応募率）、4中学校（50%）、3園（30%）755作品
  - [三田の料理コンテストの応募] 28作品（昨年度比較40%増）
  - ・三田の特産物や学校給食のよさを発見できた。
  - ・普段の食生活を振り返り、食への思いがキャラクターの作品にこめられていた。

三角おにぎり体験



・料理を通して家族の絆を深め、子どもの成長を感じ、料理作りの達成感や楽しさを実感できた。

○“食べチャオさんだ！”三田の食育フェスティバルの開催

平成24年11月25日に、関係機関、学校園所、家庭、地域と連携して開催。三田の食育推進事業のまとめの場となり、子どもから大人まで多くの参加があった。食の関心をもち、三田の食育を知る機会となった。

- ・市内2小学校より食育実践発表、食に関する寸劇や歌、ダンスの公演（参加者のべ450人）
- ・食に関する体験、クイズラリー（参加者のべ680人）
- ・学校給食展示コーナー（200人）
- ・給食試食（150人）



<学校における食に関する指導の充実>

○学校給食を生きた教材として活用する指導

- ・給食だよりや「こんしゅうのこんだて」（週刊の指導資料）を発行し、給食時間の指導を継続的に行い、給食を残さず食べる意欲につなげた。
- ・給食残食調査の分析と結果を活用し、食べることの大切さについて考える機会となった。

○体験活動を通じた食育の実践

○校内の食育推進委員会や食育研修会を開催

- ・教職員の意識向上と、学校の教育活動全体を通じた取組について共通認識できた。
- ・食育と教科が関連した継続的な学習や年齢に応じた指導の重要性、様々な生きた教材を活用した食育、自分たちで育てた作物の食べ方を通して食文化の学習をする大切さなどを学んだ。

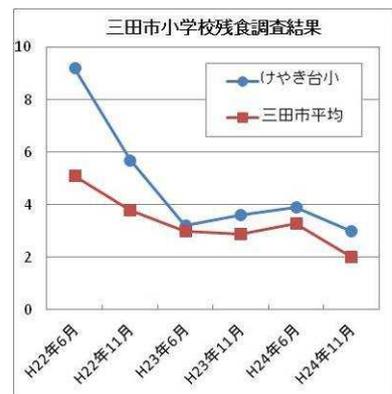
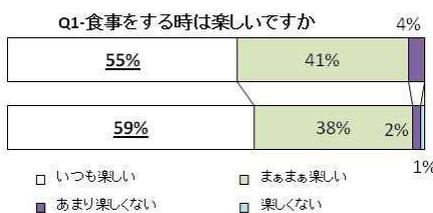
## 本事業における評価指標と考察

○三田市の状況（平成23年度 → 平成24年度調査より）

- ① 朝食欠食率（小6）2.9%（中3）5.9% → （小6）3.3%（中3）6.4%
- ② 地場産物活用率 19.5%
- ③ 残食率（小学校）3.0%（中学校）1.2% → （小）2.0%（中）0.3%

○実践中心校の状況（平成24年度7月 → 平成25年1月実施アンケートより）

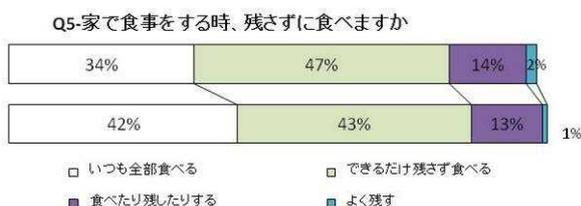
- ① 朝食欠食率 3.0% → 5.0%
- ② 残食率 3.9% → 3.0%
- ③ 食事をする時いつも楽しい 54.0% → 59.0%



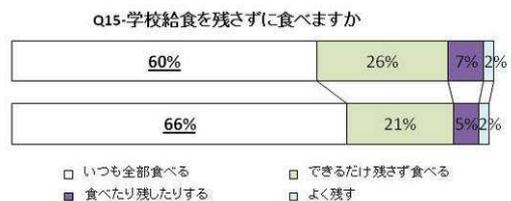
- ④ 学校給食がいつでも好き 38.0% → 35.0%
- ⑤ 給食時間の献立についての放送を、興味をもって聞いている 21.0% → 16.0%

○その他の指標

- ① いつも全部食べる <好き嫌いについて> (家) 34.0% → 42.0%

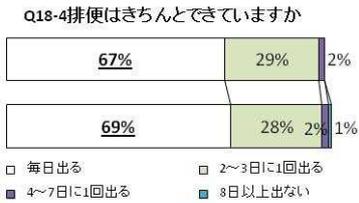


- (給食) 60.0% → 66.0%



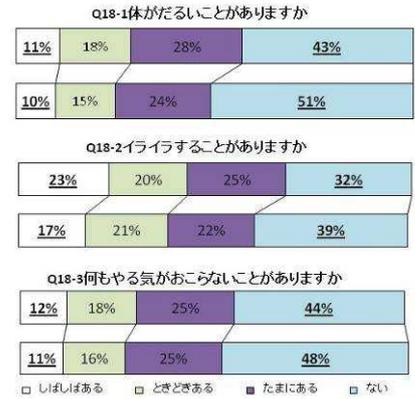
② 排便は毎日出る <生活習慣>

67.0% → 69.0%



③ 身体の調子について

- ・体がだるいことがない  
43% → 51%
- ・イライラすることがない  
32% → 39%
- ・何もやる気がおこらないことがない  
44% → 48%



【考察】

- ・食事がいつも楽しい、食べ物はとても大切だと思っている子が5ポイント増加している。
  - ・いつも全部食べる子が、家で8ポイント、学校で6ポイント増え、残さず食べようとする意識が高まっている。
  - ・生活習慣について、朝ごはんを毎日食べる割合が2ポイント減少しているが、排便は、毎日出る子が2ポイント増え、排便の習慣はついてきている。
  - ・身体の不調を感じている子は、年齢が上がるごとに増えているが、全体的に、体の不調を感じる子は減り、体調は整いつつある。
- 1年間の食育実践では、朝食欠食率減など生活習慣を大きく変えることはできなかったが、食に対する意識や行動は少しずつよい方向に変化した。
- 食の体験活動を通して、食の大切さを実感し、食事を楽しむことや残さず食べる気持ちにつながった。
- 継続した食育を行う事で嫌いな食べ物が減り、食べる意欲や健やかな心と身体の成長につながると考えられる。

本事業の成果

- 夏休み子ども料理教室は、子どもたちが自分で作って食べる「食の自立」を目指して開催できた。料理の基本を知り、協力して作って食べる楽しさを体験した。(料理教室に参加して楽しかった 100%)
- 実践中心校の料理教室は、地域と連携し開催できた。学校給食を活用したメニューの調理を通して、自分の食生活を振り返り、バランスのよい食事や給食について学べた。(料理教室に参加して楽しかった 96.6%)
- 実践中心校のPTA試食会は、38名の参加があり、三田の安全安心でおいしい学校給食を知り、家での食習慣を見直すよい機会となった。
- 学校の食育推進委員会を整備、活用し、教職員の食育に対する意識向上を図った。また、子どもの実態に沿った食に関する指導の全体計画及び年間指導計画の作成ができ、発達段階に応じた食育テーマ(目標)を設定できた。
- 栽培など体験活動の充実は、子ども達の生き生きとした学びとなり、食に対する意識や意欲が高まった。
- 教職員の食育に対する意識を少しずつ改革でき、声掛けやアプローチの大切さを実感した。
- 実践中心校の具体的な取組を食育研修会や報告書の作成、配付により共有することができた。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- 料理教室を通して、作ることの楽しさを実感しているが、この経験を生かして自分の食生活を見直し、日々の生活につなげることが大切である。そのためには、定期的な情報発信として「食育だより」等を定期的に発行し、更に、家庭と連携して取組むことが大切である。
- 学校の教育活動全体で教職員の共通理解のもと食育に取り組んでいるが、組織的、継続的な食育の取組はまだ十分とはいえない。今後、教科や特別活動等と関連させた食育の目標を明確にし、取組の展開が必要であるため、食育研修会等を計画的に開催する予定である。
- 実践中心校の食生活アンケート(2回実施)では、食事を楽しむこと、残さず食べる気持ちが高まり、身体の不調を感じている子の割合も低くなった。しかし、生活習慣の改善や家庭での食事スタイル(共食)の変化はほとんどみられなかったことから、学校での食育を情報発信し続けることと、家庭や地域を巻き込んだ食育実践を継続して行う必要がある。
- 三田の食育推進事業を継続し、市民へ呼びかけ、食育に関心のある人を増やし、食育の定着化を目指していく。
- 三田市食育推進計画に基づき、学校における食育の目標を明確にし、子どもの実態に沿った食育推進の重点的な取組内容の方向性を示すため、教育委員会として「三田市学校園食育推進計画(仮称)」を策定する予定である。